



夏休みが明けて2週間。日中はまだまだ暑いですが、朝晩は寒さを感じる日もあります。子どもたちは9月23日の運動会に向けて、大きな汗を流しながら練習に取り組んでいます。どんな頑張りを見せてくれるか、本番が楽しみです。ぜひ、わが子の一所懸命な姿をご覧ください、ご家庭に持ち帰っていただければと思います。

さて、夏休み明けの朝会で、奈良公園のバンビ(子鹿)の話をしました。かわいいバンビのお母さんとお父さんには、もちろん母と父(おばあさんとおじいさん)がいて、そのそれぞれにも母と父(ひいおばあさんとひいおじいさん)がいる。さて、25代さかのぼったら、いったい何頭の祖先がいるのだろう?と。



## わたしの「いのち」は 多くの「いのち」のつながりで できている



川崎 洋さんに『ペンギンの子が生まれた』という詩があります。

ペンギンの子が生まれた／父さんと母さん／それぞれのおじいさんとおばあさん／さらにはひいおじいさんとひいおばあさん と／ほんの二五代さかのぼっただけで／この子の両親を始めとする祖先の総計は／六七一〇万八千八百六十二羽になる／そのうちのどの一羽が欠けても／この子はこの世に／現れなかった／ペンギンの子が生まれた



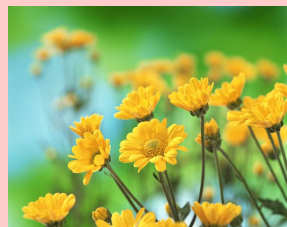
この詩を元にした朝会の話でした。自分のいのちは、いったい何人の「いのち」とつながっているんだろう...? 母さんと父さん、その母さんと父さん、そのまた……。25代だけでも〈67,108,862人〉。う～ん、気が遠くなりそうです。川崎さんが言っているように、祖先のどの一人が欠けても、「わたし」は生まれなかった。そんなとらえ方をすると「かけがえのない命」という言葉が、違った光り方で迫ってきます。いま目の前にいるわが子は、いてくれるだけで尊い存在なんだとあらためて思う。いやそれは、お隣の子ともだって同じだし、そう感じている大人の「わたし」も同じです。楽観的な私は「こんなに多くのつながりがあるんなら、よし、だいじょうぶ! 頑張ろう!」などと思ってしまう。



## 同じ方向を向くことの大切さ

向き合う。わが子と向き合う。自分と向き合う。家族と向き合う....。この「向き合う」という表現、実にいろんな大切な場面で使われています。そしてほとんどの場合、逃げたり避けたりすることなく、しっかりと相手に、対象に「向き合う」ことが求められる。確かにとても大切なことです。しかしながら、あまりに「向き合う」ことを強調しすぎると、「しんどく」なってくることもあります。もちろん、「逃げてはいけない」のですが、そんなときは意識を変えて、『同じ方向を向くこと』を心がけてみてはどうでしょうか。

「本当にうちの子、反抗ばかりして...」とか、「毎日毎日、同じことばかり言ってるけど、全然ちゃんとやらなくて...」など、この手の親の悩みは尽きません。でも、反抗している子ども自身が楽しいはずはありません。不満や不安の渦中(か



ちゅう)にいるのは、今、目の前にいる子ども自身。そんなわが子に「向き合う」ことで迫るよりも、『同じ方向を向くこと』で自然と生まれる安心感や意欲もあると思うのです。

## 4つの「ま(間)」って... なに?

昔から子どもの成長に大切なのは「3つの『ま』」だとされました。場所(空間)の「ま」、時間の「ま」、仲間の「ま」。この3つを大事にしないといけません、と教えられた人も多いでしょう。元 大阪教育大の園田雅春先生は、この3つの『ま』に1つ加え、4つ目の『ま』を提唱されています。

それは、隙間(すきま)の「ま」。いつも緊張しているような余裕のない状態では、心が晴れやかになることができない。車でいえば、ハンドルの「遊び」(少し動かしても反応しない部分のこと)が大切なと同じです。



それなのに、今は一つも「ま」がない。だから遊べない。遊びがないからストレスをため込んでしまう。自分よりも弱い存在を作って、ストレスをぶつけてしまうと....。

私たち大人は子どもの頃、遊びを通していろいろなことを学びました。そして「こいつ、こんな面もあるんだ」と相手を多面的に理解し、その人の気持ちを推し量ることも知りました。そうやって人間関係を含めた社会というものを理解していったと思います。

では、「4つの『ま』」を作り出せない今の子どもたちはどうしたらいいのか? 「好きなことに打ち込む」というのも一つの答えだと思えます。

**「何でもいい。好きなことに打ち込む! それは必ず社会とつながってくる!」**